



自然堤防(黄色)

土地の成り立ち 現在や昔の河川に沿って細長く分布し、周囲より0.5～数メートル高い土地。

河川が氾濫した場所に土砂が堆積してできる。

この地形の自然災害リスク 洪水に対しては比較的安全だが、大規模な洪水では浸水することがある。

縁辺部では液状化の発生傾向が強い。

旧河道(青)

土地の成り立ち かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後には砂や泥などで埋められてできる。

この地形の自然災害リスク 河川の氾濫によって周囲よりも長期間浸水し、水はけが悪い。地盤が軟弱で、地震の際の揺れが大きくなりやすい。特に埋立(盛土)した地域では液状化の発生傾向が非常に強い。

扇状地(ベージュ色)

土地の成り立ち 山地の谷の出口から扇状に広がる傾斜の緩やかな土地。

谷口からの氾濫によって運ばれた土砂が堆積してできる。

この地形の自然災害リスク 山地からの出水による浸水や、谷口に近い場所では土石流のリスクがある。

比較的地盤は良いため、地震の際には揺れにくい。下流部ではやや弱い液状化の発生傾向がある。

氾濫平野・海岸平野(緑)

土地の成り立ち 起伏が小さく、低くて平坦な土地。洪水で運ばれた砂や泥などが河川周辺に堆積したり、過去の海底が干上がったりしてできる。

この地形の自然災害リスク 河川の氾濫に注意。地盤は海岸に近いほど軟弱で、地震の際にやや揺れやすい。強い地震による液状化発生傾向は海岸平野で強く、氾濫平野ではやや強い。沿岸部では高潮に注意。

台地・段丘(濃いオレンジ色)

土地の成り立ち 周囲より階段状に高くなった平坦な土地。周囲が侵食により削られて取り残されてできる。

この地形の自然災害リスク 河川氾濫のリスクはほとんどないが、河川との高さの差が小さい場合には注意。

縁辺部の斜面近くでは崖崩れに注意。地盤は良く、地震の揺れは小さい。液状化の発生傾向が弱い。